



---

---

# あたらしい 農業技術

---

No.644

---

新しい水稲糯奨励品種「葵美人」  
の育成と栽培法

平成 30 年度



## 要 旨

### 1 技術、情報の内容及び特徴

- (1) 「するがもち」と比べて、出穂期は約1日、成熟期は約5日遅い晩生のもち品種です。
- (2) 「するがもち」より稈長は8cm短く、穂長は1.5cm長く、穂数は少ない穂重型の品種です。
- (3) 稈質は“剛”、耐倒伏性は“強”で「するがもち」よりも優れます。
- (4) 収量は「するがもち」よりも標肥栽培で7%、多肥栽培で10%程度多収です。
- (5) 玄米は「するがもち」より千粒重で2.5g程度重く、外観品質は「するがもち」と同等です。
- (6) 葉いもち抵抗性は“中”で「するがもち」より優れ、縞葉枯病抵抗性を有します。
- (7) 穂発芽性は“やや難”、脱粒性は“難”で「するがもち」より明らかに優れます。
- (8) もちの食感はきめが細かくて、やや柔らかく、色は上品な白色で、「するがもち」に比べて粘りがあり、のびがよく、硬くなりにくい品種です。また、つきたての「きなこもち」や、のした後の「切りもち」にも向き、「おこわ」にしても食べ応えがあります。
- (9) 栽植密度は11.1～18.5株/m<sup>2</sup>で収量・外観品質ともに安定します。
- (10) 5月中旬から6月下旬までのいずれの移植時期においても収量性・玄米外観品質に差はなく、幅広い作型が可能です。
- (11) 収穫適期は出穂後45～50日程度（積算温度1,000～1,200℃程度）です。
- (12) 施肥量は「するがもち」と同程度で、市販の全量基肥資材による施肥も可能です。

### 2 技術、情報の適用効果

「葵美人」を県内に導入することにより、既存もち品種「するがもち」の課題であった倒伏性や穂発芽性、脱粒性等の問題点が改善され、安定多収栽培が可能となります。「するがもち」よりも収穫時期が遅い晩生品種であることから、粳米収穫後に糯米を収穫することが多い大規模農家等も導入しやすく、作業の平準化や施設・機械利用の効率化が可能となります。また、大粒であること、もち特有の香りがしにくく上品な味わいがあることから、自家消費に使用されることが多かった「するがもち」とは異なり、新たな商品開発・消費者ニーズに貢献すると考えられます。

### 3 適用範囲

静岡県内平坦地

### 4 普及上の留意点

- (1) 葉いもち抵抗性は“中”のため、適期防除に努めてください。
- (2) 「するがもち」より出穂期から成熟期までの期間が4日程度長いこと、成熟期においても葉色が濃いことに留意し、収穫時期の判断に注意してください。
- (3) 収穫後は急速な乾燥を避け、二段乾燥を行うなど十分に時間をかけて処理してください（糯品種を栽培したことがない場合は注意が必要です）。
- (4) 遅れ穂の発生を防ぐため、穂肥は適期に適量を施用してください。また、全量基肥資材を用いる場合は、品種に適した資材を用いてください。

## 目次

はじめに	1
1 葵美人の品種特性	1
(1) 品種特性	1
(2) 栽培上の注意点	5
2 「葵美人」の栽培方法	6
(1) 栽植密度について	6
(2) 移植時期について	7
(3) 収穫時期について	8
(4) 施肥法について	9
おわりに	10

## はじめに

静岡県の水稲生産は、生産物のほぼ全量が県内で消費され、県民の豊かな食生活実現の一端を担っています。もちについても、昭和 52 年に奨励品種に採用され現最も栽培されている「するがもち」を始め、「ヒヨクモチ」や「峰の雪もち」、「志太糯」、「金太糯」、「滋賀羽二重糯」など多様な品種が栽培され地域の食生活や食文化を支えています。しかし、近年、地球温暖化の影響による品質や生産性の低下が問題となるとともに、米消費量の減少で価格も低迷し、より一層の生産コストの低減が求められています。特に「するがもち」は倒伏しやすい、穂発芽しやすい、脱粒しやすい等の栽培上の欠点があるうえに、熟期が中晩生であることから大規模農家が導入しにくく、晩生熟期で栽培特性が優れたもち品種が要望されていました。

そこで、農林技術研究所では晩生熟期のもち品種の育成と選定を進めてきた結果、平成 27 年に「葵美人」を育成し、平成 28 年に奨励品種に採用されましたので、栽培・特性調査の結果を報告します。

## 1 葵美人の品種特性

### (1) 品種特性

#### ア 来歴

「葵美人」は、多収で食味が優れる晩生糯系統「静系糯 13 号」（後の「静太郎糯」）を母とし、やや大粒で食味が優れ、縞葉枯抵抗性を有する晩生糯系統「中部糯 93 号」を父とし、平成 7 年 8 月に静岡県農業試験場作物部水稻研究室（掛川市下垂木）において交配した後代から集団育種法により育成されました（図 1）。平成 28 年 3 月に奨励品種に採用され、平成 30 年 6 月に品種登録されました。

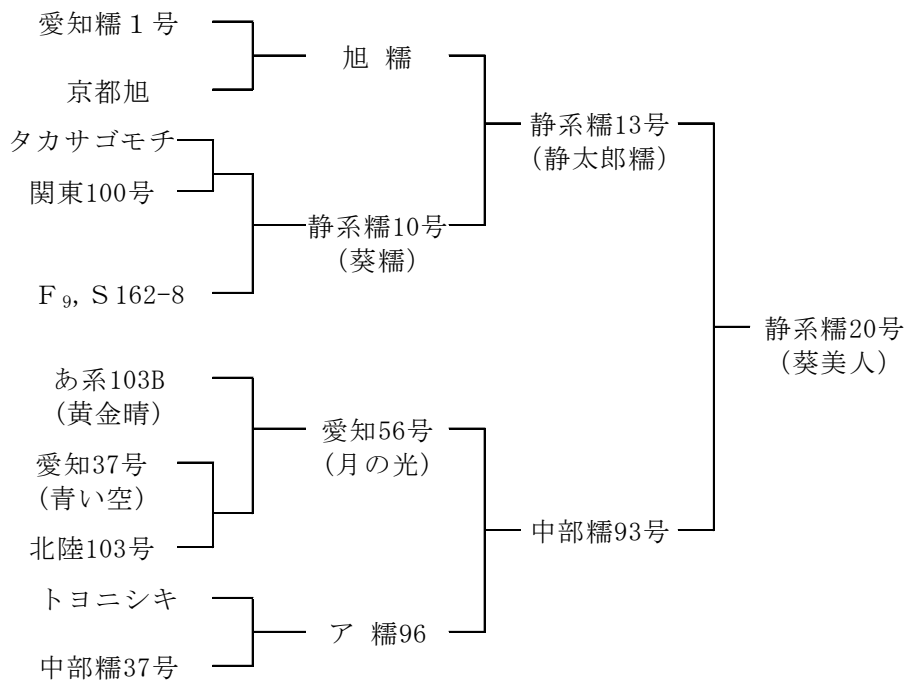


図 1 「葵美人」の系譜

イ 特性の概要

(ア) 出穂期および成熟期

「するがもち」と比べて、出穂期は1日遅く、成熟期は5日遅い“晩生”です。平坦地では6月1日頃に移植をすれば、10月上旬に収穫できます(表1)。

(イ) 草姿

稈長は「するがもち」よりも8cm程度短く、穂長は1.5cm長く、穂数は少ない穂重型の品種です。成熟期でも葉色が濃く、止葉が立ち、草姿が良好です(図2、図3)。

表1 普通植標肥栽培での生育、収量(平成24~27年の平均)

品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏程度	玄米重	同左	玄米	玄米外観
	月.日	月.日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>	程度	kg/a	比較比率%	千粒重g	品質
葵美人	8.22	10.07	77	21.2	312	0.6	55.8	107	25.3	4.7
するがもち	8.21	10.01	85	19.7	377	1.4	52.3	-	22.8	3.9
ヒヨクモチ	8.27	10.08	71	19.7	377	0.5	58.1	111	22.9	5.4

- 注) 1. 倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価。  
 2. 玄米外観品質は1(上上)~9(下下)の9段階評価で、5までが農産物検査1等相当。  
 3. 移植期は6月1日頃。栽植密度は18.5株/m<sup>2</sup>(30cm×18cm)。1株3本手植え。  
 4. 本田窒素施用量(kg/a)  
 基肥:0.40 - 中肥(移植後30日頃):0.15 - 穂肥(出穂前25日頃):0.40



図2 葵美人の草姿

(上: 葵美人 下: するがもち)



図3 葵美人のチラシ

(ウ) 成熟期の特性

稈質は“剛”、耐倒伏性は“強”で「するがもち」より優れます。籾のふ先色は出穂時は“淡赤色”で成熟するにしたがって色が濃くなり成熟期には“紫”になります。稀に短い芒が発生し、出穂期に“淡赤色”だった芒は成熟期には“赤褐色”に変化します。籾の粒着密度は“中”で「するがもち」より密で、1穂着粒数は「するがもち」より多くなります(表2)。

表2 成熟期の特性

品種名	稈の		耐倒伏性	芒の		ふ先色	ふ色	粒着密度	脱粒難易
	細太	剛柔		多少	長短				
葵美人	中	剛	強	稀	短	淡赤	黄白	中	難
するがもち	中	中	やや弱	少	短	淡赤	黄白	やや疎	易
ヒヨクモチ	中	剛	強	少	極短	褐	黄白	中	易

(エ) 収量性

農林技術研究所での収量は「するがもち」対比で、普通植標肥栽培で107%、普通植多肥栽培で110%程度と「するがもち」よりも多収です。現地栽培でも「するがもち」対比112%と研究所と同等の結果が得られています(表3、表4)。

表3 普通植多肥栽培の調査結果

品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏程度	玄米重	同左	玄米	玄米外観
	月. 日	月. 日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>		kg/a	%	g	
葵美人	8.23	10.10	81	20.7	353	0.2	59.3	110	25.9	5.2
するがもち	8.22	10.06	89	19.2	403	1.0	53.9	-	22.9	4.5
ヒヨクモチ	8.22	10.06	73	19.4	388	0.0	60.3	112	23.8	5.7

- 注) 1. 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。  
 2. 玄米外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価で、5までが農産物検査1等相当。  
 3. 移植期は6月1日頃。栽植密度は18.5株/m<sup>2</sup>(30cm×18cm)。1株3本手植え。  
 4. 窒素施用量(kg/a) 基肥:0.60 - 中肥(移植後30日頃):0.15 - 穂肥(出穂前25日頃):0.60  
 基肥:0.60 - 中肥(移植後30日頃):0.15 - 穂肥(出穂前25日頃):0.60

表4 現地試験における調査結果(試験地:袋井市梅山)

品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏程度	玄米重	同左	玄米	玄米外観
	月. 日	月. 日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>		kg/a	%	g	
葵美人	8.19	10.06	73	21.6	289	0.0	50.1	112	25.8	5.0
するがもち	8.18	9.30	78	20.0	353	0.3	44.9	-	22.7	5.4
ヒヨクモチ	8.22	10.06	68	19.6	328	0.0	44.3	99	23.3	5.5

- 注) 1. 稚苗箱育苗、5月下旬移植、栽植密度18.5株/m<sup>2</sup>、1株3本植え  
 2. その他の栽培方法は現地慣行法による。  
 3. 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。  
 4. 玄米外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価で、5までが農産物検査1等相当。

(オ) 玄米の大きさと品質

玄米の大きさは「するがもち」よりもやや大きく、千粒重はやや重くなります。外観品質は「するがもち」に比べてやや腹白粒の発生が多く光沢がやや劣りますが、障害粒の発生は少なく良好です（表5）。

表5 普通植標肥栽培における玄米外観品質と障害粒の発生程度

品種名	普通植標肥						普通植多肥 玄米外観 品質
	玄米外観 品質	障害粒の多少					
		乳心白	腹白	背白・基白	茶米	発芽粒	
葵美人	4.7	0.0	0.3	0.0	1.1	0.1	5.2
するがもち	3.9	0.0	0.1	0.0	0.6	0.3	4.5
ヒヨクモチ	5.4	0.0	0.3	0.0	1.7	0.0	5.7

- 注) 1. 玄米品質は1（上上）～9（下下）の9段階評価。  
 2. 障害粒の多少は0（無）～5（甚）の6段階評価。  
 3. 普通植標肥は平成24～27年、普通植多肥は平成26～27年の平均

(カ) 食味

もち質はきめが細かく、硬くなりやすく、適度にのびます。つきたて時の食味は「するがもち」よりも優れ、切りもち時の食味は「するがもち」と同程度に優れます。また、大粒で、しっかりふっくらしているので、おこわとして炊いても食べごたえがあります（表6）。

表6 食味官能調査結果（所内普通植標肥栽培）

品種名	評価	評価項目					
		総合評価	外観	香り	うま味	のび	なめらかさ
葵美人	つきたて	0.30	-0.05	0.08	0.10	0.50	0.13
	切りもち	-0.07	-0.31	0.06	0.05	0.16	-0.06

- 注) 1. 普通植標肥栽培の「するがもち」を基準(0)とする評価の平均。  
 2. -3（かなり不良）～3（かなり良い）で評価。  
 3. 「切りもち」は「つきたて」の餅をのし、一昼夜放冷後に切り分け、7日程度冷蔵庫で保存した後、鍋で煮た（5分間）ものを評価。  
 4. 平成25～27年の平均  
 5. パネラー数は9～20人



(キ) 耐病性および障害抵抗性

葉いもちには“中”の抵抗性を示し、縞葉枯病には抵抗性を示します。穂発芽性は“やや難”で、「するがもち」に比べて優れます（表7）。

表7 耐病性および穂発芽性

品種名	葉いもち 抵抗性	縞葉枯病 抵抗性	穂発芽性
葵美人	中	抵抗性	やや難
するがもち	や弱	罹病性	やや易
ヒヨクモチ	や弱	罹病性	やや易

(2) 栽培上の注意点

晩生熟期であることから、県内平坦地での栽培に適しています。栽培にあたっては以下の点に留意してください。

- ①葉いもちの抵抗性は「中」あるため、適期防除に努めてください。
- ②「するがもち」よりも出穂期から成熟期までの期間が4日程度長いこと、成熟期においても葉色が濃いことに留意し、収穫時期の判断に注意してください。
- ③収穫後は急速な乾燥を避け、二段乾燥を行うなど十分に時間をかけて処理してください（糯品種を栽培したことがない場合は注意が必要です）。
- ④遅れ穂の発生を防ぐため、穂肥は適期に適量を施用してください。

## 2 「葵美人」の栽培方法

### (1) 栽植密度について

施肥を窒素成分9 kg/10a、移植時期を6月1日、栽植密度を6段階に設定し、栽植密度の違いが出穂・成熟期や収量、品質等に与える影響を調査しました。

栽植密度が低いほど出穂期および成熟期は遅くなりました。また、栽植密度を22.2株/m<sup>2</sup>以上にするとm<sup>2</sup>あたりの粒数および精玄米重が低下しました。一方、栽植密度の違いによるm<sup>2</sup>あたりの穂数や穂長、稈長、玄米外観品質に大きな差はみられませんでした。このことから、「葵美人」の栽培において栽植密度は18.5株/m<sup>2</sup>以下にすることが望ましいと考えられました(表8、表9)。

表8 栽植密度の違いによる生育、成熟の様相

栽植密度	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	有効茎歩合	倒伏 <sup>1)</sup> 程度
株/m <sup>2</sup>	8.22	月.日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>	%	
27.6	8.22	10.06	71	20.2	287	62.1	0.0
22.2	8.22	10.06	71	20.4	275	64.9	0.0
18.5	8.23	10.06	76	21.0	329	71.9	0.0
16.7	8.23	10.06	74	20.5	293	69.2	0.0
13.8	8.23	10.08	74	20.5	268	71.2	0.0
11.1	8.24	10.09	76	20.9	282	84.9	0.0
参) するがもち	8.22	9.30	78	18.7	321	66.7	0.5

注) 1. 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。  
2. するがもちの栽植密度は18.5株/m<sup>2</sup>

表9 栽植密度の違いが収量や品質におよぼす影響

栽植密度	精玄米重	同左比率	層米歩合	千粒重	登熟歩合	一穂粒数	m <sup>2</sup> 粒数	玄米外観品質 <sup>1)</sup>
株/m <sup>2</sup>	kg/a	%	%	g	%		×100粒	
27.6	52.3	91	0.4	24.3	92.0	81.7	235	5.0
22.2	52.4	92	0.6	23.9	88.9	83.8	231	5.5
18.5	57.2	100	0.5	24.2	88.4	87.8	289	5.0
16.7	59.5	104	0.5	24.1	86.9	91.5	268	5.5
13.8	58.5	102	0.6	24.4	89.0	93.0	249	5.0
11.1	57.7	101	0.6	24.1	87.0	91.4	258	5.5
参) するがもち	50.1	-	0.5	22.3	93.9	66.9	215	4.0

注) 1. 玄米外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価  
2. するがもちの栽植密度は18.5株/m<sup>2</sup>

## (2) 移植時期について

施肥を窒素成分 8 kg/10a、栽植密度を 18.5 株/m<sup>2</sup>、移植時期を 5 段階に設定し、移植時期の違いが出穂・成熟期や収量、品質等に与える影響を調査しました。

「葵美人」の移植を 10 日程度移動させると、出穂期は 5～7 日程度、成熟期は 5～10 日移動しました。また、移植から出穂までに必要な積算温度は概ね 2000℃で移植時期が遅くなるにつれ小さくなる傾向で、出穂から登熟までに必要な積算温度は概ね 1200～1300℃でした。収量や玄米外観品質は移植時期の早晚による大きな差はみられませんでした。このことから、「葵美人」は 5 月中旬から 6 月下旬までの幅広い作型が可能な品種と考えられます (表 10、表 11)。

表 10 移植時期の違いによる生育、成熟の様相

品種名	移植日	出穂期	成熟期	出穂 日数	出穂 <sup>1)</sup> 積算温度	登熟 日数	登熟 <sup>2)</sup> 積算温度	稈長	穂長	穂数	有効茎 歩合	倒伏 <sup>3)</sup> 程度
葵美人	5.12	8.07	10.01	87	2,053	55	1,377	74	21.2	332	56	0.0
	5.22	8.14	10.06	84	2,049	53	1,286	78	22.3	321	52	0.0
	6.03	8.22	10.17	80	2,007	56	1,276	78	21.5	342	80	0.0
	6.12	8.26	10.23	75	1,923	58	1,286	86	20.4	362	70	0.5
	6.23	9.02	10.29	71	1,865	57	1,221	78	21.8	340	73	0.0
するがもち	5.12	8.05	9.24	85	1,996	50	1,285	79	19.5	378	65	0.5
	5.22	8.12	10.03	82	1,994	52	1,279	80	19.7	372	65	1.0
	6.03	8.20	10.09	78	1,951	50	1,179	86	19.0	382	79	1.0
	6.12	8.27	10.22	76	1,949	56	1,242	96	19.2	449	75	3.0
	6.23	9.02	10.24	71	1,865	52	1,131	85	19.5	394	72	1.0

- 注) 1. 出穂積算温度は移植～出穂までの日平均気温の積算温度  
 2. 登熟積算温度は出穂～登熟までの日平均気温の積算温度  
 3. 倒伏程度は 0 (無)～5 (甚)の 6 段階評価。

表 11 移植時期の違いが収量や品質におよぼす影響

品種名	移植日	精玄 米重	同左 比率	千粒重	屑米 歩合	平均 1 穂粒数	m <sup>2</sup> 当り 粒数	登熟 歩合	玄米 <sup>1)</sup> 外観品質
葵美人	5.12	58.3	99	25.1	0.6	80.8	268	79.2	5.5
	5.22	58.7	100	24.6	0.8	85.3	274	79.5	5.0
	6.03	58.7	100	25.9	1.1	79.9	273	79.4	5.3
	6.12	61.9	105	25.5	1.3	77.0	278	79.7	5.3
	6.23	60.7	103	25.2	1.3	82.8	282	81.6	5.3
するがもち	5.12	56.4	104	22.6	0.9	65.2	247	85.0	4.8
	5.22	57.3	106	21.9	0.7	71.7	267	88.5	4.8
	6.03	54.2	100	23.5	0.6	58.3	223	86.0	4.8
	6.12	65.1	120	22.8	1.8	65.5	294	82.9	5.0
	6.23	58.6	108	23.3	0.7	66.5	262	87.0	5.0

- 注) 1. 玄米外観品質は 1 (上上)～9 (下下)の 9 段階評価  
 2. 平成 27 年は登熟期間にあたる秋期の気温が低く、帯緑粒歩合の減少が緩慢で、本県において成熟期として判断している帯緑歩合 10% では刈り遅れ傾向であった。

(3) 収穫時期について

施肥を窒素成分 8 kg/10a、栽植密度を 18.5 株/m<sup>2</sup>、収穫時期を 7 段階に設定し、収穫時期の違いが収量、玄米外観品質等に与える影響を調査しました。

収量はいずれの移植時期においても、出穂後積算温度が約 900℃（出穂後 35～40 日程度）に達する頃までは収穫時期が遅いほど増加し、その後はほぼ一定となりました。また、玄米外観品質は出穂後 45 日～50 日（積算温度概ね 1,000～1,200℃）程度が良好で、それより早い収穫時期では、光沢があるものの青米が多く、粒揃いがやや劣り溝が深く、遅い収穫時期では、光沢がやや劣り、茶米が多くなりました。このことから、「葵美人」の収穫は、出穂後 45 日～50 日程度（積算温度概ね 1,000～1,200℃）が適期と考えられます（表 12）。

表 12 収穫時期の違いが収量や品質におよぼす影響

移植日	収穫日	出穂後 日数	出穂後 <sup>2)</sup> 積算温度 ℃	帯緑籾 <sup>3)</sup> 歩合 %	精玄 <sup>4)</sup> 米重 kg/a	屑米率 %	千粒重 g	玄米 <sup>5)</sup>				
								品質	粒揃い	溝深さ	光沢	茶米
5/12	9.07	31日	816	77.7	54.0	1.9	24.2	6.0	中	中	良	0.0
	9.12	36日	935	58.7	54.7	1.9	24.3	5.8	中	中	良	0.0
	9.15	39日	1,005	61.1	58.8	1.2	24.5	5.5	や良	や浅	や良	0.0
	9.22	46日	1,137	24.5	58.4	1.3	24.6	5.0	や良	や浅	や良	0.0
	9.25	49日	1,227	22.2	58.5	0.3	25.0	5.0	や良	や浅	や良	1.0
	9.30	54日	1,338	10.3	59.5	0.6	25.1	5.5	や良	や浅	中	1.5
	10.05	59日	1,443	5.7	59.1	1.0	24.8	5.5	や良	や浅	中	1.5
5/22	9.14	31日	786	95.5	53.1	3.3	23.2	6.0	中	や深	良	0.0
	9.18	35日	872	76.6	58.2	1.6	23.7	5.5	や良	中	良	0.0
	9.25	42日	1,031	41.7	59.5	1.2	23.8	5.5	や良	や浅	や良	0.0
	9.28	45日	1,074	18.3	59.0	1.0	24.1	4.8	や良	や浅	や良	0.0
	10.02	49日	1,181	10.3	59.4	0.7	24.3	4.8	や良	や浅	や良	0.0
	10.08	55日	1,304	8.9	58.7	0.8	24.6	5.0	や良	や浅	や良	0.5
	10.13	60日	1,397	4.4	59.4	0.6	24.6	5.2	や良	や浅	中	1.0
6/3	9.22	31日	747	87.0	48.0	3.9	24.5	6.0	中	や深	や良	0.0
	9.25	34日	814	89.6	52.6	2.6	25.0	5.8	中	中	良	0.0
	9.30	39日	925	50.3	56.6	1.0	25.7	5.3	や良	や浅	良	0.0
	10.07	46日	1,069	31.2	58.1	0.8	25.9	4.7	や良	や浅	良	0.0
	10.13	52日	1,180	16.1	58.1	0.8	26.1	5.0	や良	や浅	や良	1.0
	10.16	55日	1,235	15.2	58.7	1.1	25.7	5.3	や良	や浅	中	1.5
	10.20	59日	1,315	8.1	58.7	0.9	25.4	5.5	や良	や浅	中	2.0
6/12	9.24	29日	688	94.3	50.5	4.0	24.8	6.0	中	や深	良	0.0
	9.30	35日	820	69.0	57.2	1.3	25.9	5.5	中	中	良	0.0
	10.05	40日	925	34.7	60.9	1.0	26.3	5.3	や良	や浅	良	0.0
	10.09	44日	1,001	20.9	61.6	1.0	26.0	4.8	や良	や浅	や良	0.0
	10.14	49日	1,094	19.0	61.9	1.6	26.0	4.8	や良	や浅	や良	0.0
	10.20	55日	1,210	11.0	62.4	1.3	25.5	5.0	や良	や浅	中	1.0
	10.26	61日	1,323	6.9	62.2	1.4	25.3	5.3	や良	や浅	中	1.5
6/23	10.02	30日	685	88.3	46.6	1.3	24.4	6.0	中	や深	良	0.0
	10.07	35日	790	71.2	54.3	3.7	25.0	5.8	中	中	良	0.0
	10.13	41日	901	34.8	58.2	2.0	26.1	5.3	や良	や浅	良	0.0
	10.16	44日	956	23.3	59.8	3.3	25.7	4.5	や良	や浅	良	0.0
	10.22	50日	1,074	15.5	61.0	2.0	25.6	4.8	や良	や浅	や良	0.0
	10.27	55日	1,165	13.0	60.7	1.3	25.2	5.0	や良	や浅	や良	1.0
	11.04	63日	1,296	5.5	60.4	1.2	25.7	5.3	や良	や浅	中	2.0

- 注) 1. 5/12移植：出穂期 8 月 7 日、5/22移植：出穂期 8 月 14 日、6/3 移植：出穂期 8 月 22 日  
6/12移植：出穂期 8 月 26 日、6/23移植：出穂期 9 月 2 日  
2. 出穂後積算温度は出穂から各収穫日までの日平均気温の積算温度  
3. 帯緑籾歩合は各収穫時期で 5 本ずつ調査した結果  
4. 精玄米重は 1.85mm の篩で調整  
5. 玄米の外観品質は 1～9（上上～下下）、茶米は 0～5（無～甚）で評価

#### (4) 施肥法について

栽植密度を18.5株/m<sup>2</sup>、移植時期を6月1日とし、中晩生熟期対象の肥効調節型全量基肥資材で県内流通量が多い2資材「エムコート045」、「きぬむすめもとひ一発」が「葵美人」の栽培に用いることが可能か検討しました。

「エムコート045」、「きぬむすめもとひ一発」どちらも出穂期と成熟期は分施と差がありませんでした。成熟期の穂数はやや多いものの、稈長は分施と差がなく、倒伏は見られませんでした。また、収量や玄米外観品質も分施と差がないことから、「葵美人」の栽培において肥効調節型全量基肥資材の「エムコート045」および「きぬむすめもとひ一発」の導入は、分施と同等以上の収量、品質が得られ、有効と考えられました(表13、表14)。

表13 肥体系の違いによる生育、成熟の様相

供試品種	資材	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	有効茎歩合	倒伏程度
		月.日	月.日	cm	cm	本/m <sup>2</sup>	%	
葵美人	エムコート	8.25	10.08	76	22.1	333	63.2	0
	もとひ一発	8.25	10.08	80	20.9	357	65.7	0
	分施	8.25	10.08	79	22.3	328	61.7	0
すももちが	エムコート	8.23	10.03	84	18.4	387	67.3	1.0
	もとひ一発	8.24	10.03	83	19.3	411	70.6	1.0
	分施	8.23	10.03	82	19.5	406	72.8	1.0

- 注) 1. 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。  
 2. エムコート045は(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=20%:14%:15%)でN成分8.6kg/10a施用  
 速効性N40%(アモニア態25%、スパーIB15%) 緩効性N 60%(エムコートS100H)  
 3. きぬむすめもとひ一発は(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=22%:11%:16%)でN成分8.6kg/10a施用  
 速効性N36% 緩効性N 64%(セラコートR)  
 4. 分施はN成分で基肥:0.4、中肥:0.15、穂肥:0.4kg/a施用  
 基肥,中肥:マップ202(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:10:12)、穂肥:マップ456(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=14:5:16)

表14 肥体系の違いが収量、品質におよぼす影響

供試品種	資材	精玄米重	屑米歩合	千粒重	登熟歩合	1穂 粒数	m <sup>2</sup> 粒数	玄米 外観品質
		kg/a	%	g	%		×100粒	
葵美人	エムコート	67.0	1.3	24.5	83.1	89.2	313	4.0
	もと肥一発	64.0	1.3	24.6	82.6	82.8	307	4.0
	分施	63.9	1.2	24.9	80.3	89.1	301	4.0
すももちが	エムコート	55.9	1.5	22.7	89.3	65.0	264	4.5
	もと肥一発	57.4	1.4	22.4	88.9	62.0	263	4.0
	分施	55.7	1.5	22.6	89.4	64.4	262	4.5

- 注) 1. 玄米外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価  
 2. エムコート045は(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=20%:14%:15%)でN成分8.6kg/10a施用  
 速効性N40%(アモニア態25%、スパーIB15%) 緩効性N 60%(エムコートS100H)  
 3. きぬむすめもとひ一発は(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=22%:11%:16%)でN成分8.6kg/10a施用  
 速効性N36% 緩効性N 64%(セラコートR)  
 4. 分施はN成分で基肥:0.4、中肥:0.15、穂肥:0.4kg/a施用  
 基肥,中肥:マップ202(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:10:12)、穂肥:マップ456(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=14:5:16)

## おわりに

およそ 40 年にわたって県内で栽培されてきた「するがもち」の栽培上の欠点をすべて解消する品種として誕生したのが「葵美人」です。県内産のもち米は主に自家用として消費されてきましたが、「葵美人」は食味等の特徴から新たなブランド・商品開発につながるものとして期待されています。本県農林技術研究所において 10 年ぶりの水稻新品種であり、ふじのくに食の都づくり仕事人や学生の人気投票を経て選ばれた品種名でもあることから、地域の食文化に根ざした品種として広く普及することを期待しています。

農林技術研究所作物科 主任研究員 外山祐介  
(現 水田農業生産技術科)  
科長 宮田祐二  
(現 中遠農林事務所)  
研究員 井鍋大祐  
(現 農芸振興課)  
研究員 白鳥孝太郎  
(現 畜産振興課)

発行年月：平成31年2月  
編集発行：静岡県経済産業部産業革新局研究開発課

〒420-8601  
静岡市葵区追手町9番6号  
TEL 054-221-3643

この情報は下記のホームページからご覧になれます。  
<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-130a/>

